

## 初めての給食

6月9日(木)は、年長組の子どもたちが小学校で給食を食べさせていただくことになっていました。

年長組の子どもたちは、朝から「今日は、きゅうしょくだね。」と話しています。もう小学校で給食を食べるのが楽しみで仕方がない様子です。

11時半、子どもたちが先生に連れられて、小学校へ出発しました。小学校の昇降口から入り、1年の教室の前を通過して、1年生の授業の様子を見せてもらいながら、給食をいただく2階の家庭科室に行きました。



この日のメニューは「牛すき煮、小松菜ともやしのおひたし、そしてご飯と牛乳。デザートはサクランボが2つ」。とても豪華な給食です。幼稚園の子どもたちが初めて給食を食べるのだからと、初物のサクランボもつけてくださったそうです。給食室の先生方の優しさが伝わってきます。

引率の先生方に給食をよそってもらい、みんなで「いただきます。」を言って食べ始めました。

子どもたちにとっては、「初めての給食」です。家庭科室に入るのも、給食用の食器で食べるのも初めてです。少し緊張しているようですが、どの子もみんなおいしそうに食べています。すぐに食べ終わって、おかわりをしている子もいます。

食が細くて普段はあまり食べない子も、一生懸命食べ、ご飯を一粒も残さず食べて、自慢げに空になったお茶碗を見せてくれました。当たり前のように見えるこういう小さなことの積み重ねが子どもたちの自信につながっていくのかなと思いました。

そんなことを考えていると、いつもとても明るく元気な女の子が、こんなことを言いました。

「1年生になったみたい！だって、ここ小学校だもの」。さらに、その子は続けて、「でも・・・、わたしは、御山小学校なんだけど、知らないんだよな・・・。」と少し不安そうにつぶやきました。

この子は、自分が入学する御山小学校に行ったことがないということを言っているのかもしれませんが、御山小学校の給食を知らないんだということを言いたかったのかもしれませんが、そこは、はっきりとはわかりませんが、私はこんなに明るく元気な子でも、子どもなりに不安に思っている



ことがあるのだなと驚いてしまいました。そして、なんだか少し申し訳ないような気がしてきました。「お姉ちゃんがいるんだから、大丈夫だよ。」と言うのが精一杯でした。

3月まで、幼稚園でやれることを一生懸命やって、小学校へ送り出してやりたいなと思いました。

最後に、給食室の先生方に「ありがとうございました。」と子どもたちみんなでお礼を言って帰ってきました。